

令和6年度 長崎市自然環境調査報告書：水生生物

長崎市自然環境調査委員 深川 元太郎

今年(2024年1月～12月)は、長崎半島に位置する「長崎市民の森」で、水生動物と昆虫類等の生物相調査を行いました。また、市内河川の調査についても別途実施しています。「長崎市民の森」と、2022年から2024年にかけて実施した市内河川の調査結果については、別途取りまとめて、報告書として長崎市などに提出しています。これらの報告書については、希少な種の保護の観点から、非公開としています。

○長崎市民の森

この施設は、長崎半島(野母半島)の根元付近に位置し、茂木町、宮摺町、上戸町といった町にわたる森林公園です。西側には角力灘の長崎湾口部、東側には千々石湾(橘湾)が広がっており、鹿尾川(角力灘)、宮摺川や若菜川(千々石湾)の源流部となっています。標高は主に300m～400mでヒノキやクヌギなどの植林やアラカシなどの照葉樹林が広がっています。また散策路や、長崎市最高峰の八郎岳への登山道が整備され、管理棟やキャンプ場のコテージもあるなど、長崎市民にとって自然環境を堪能できる憩いの場として活用されています。

調査は、水生動物類ではタモ網採集、目視確認のほか、水生甲虫のヒメドロムシ科を主な対象とした「ふんどし流し」採集や灯火採集も実施しています。陸上昆虫類では、ビーティング採集、スウィーピング採集、灯火採集、FIT採集、スプレーイング採集、目視確認などを実施し、その他の動物類では自動撮影装置、バットディテクター、フィールドサインによる確認も合わせて実施しています。調査日と調査方法は表1のとおりです。



図 長崎市民の森の状況

表 1 調査日と調査方法

No.	調査年月日	調査者	陸上昆虫類							共通	水生動物			両生・爬虫・哺乳類			
			陸上 ルンギン	ビーティング	スーピング	PT	FIT	スプレイング	クレンジング		水辺 ルンギン	蛙網	白布渡し (フボシ渡し)	自動撮影	目撃	フィールド サイン	バット ディテクター
調査	2023.10.29	FG	○													○	
1	2024.1.6	FG	○	○			設置4	○		○	○			設置2	○	○	
2	2024.1.21	FG	○	○				○		○				回収2	○	○	
3	2024.1.27	FG	○	○						○					○	○	
4	2024.2.3	FG	○	○			回収3設置3	○		○	○	○	○		○	○	
5	2024.2.10	FG、小原	○	○			回収3設置3	○		○	○	○		設置2		○	
6	2024.2.17	FG	○	○				○		○	○					○	○
7	2024.2.24	FG								○					○		
8	2024.3.23	FG	○	○			回収3設置3	○		○				回収2	○	○	
9	2024.3.9	FG	○	○			回収3設置3	○		○	○				○	○	
10	2024.3.16	FG								○					○		
11	2024.3.24	FG								○					○	○	
12	2024.4.5.7	FG	○	○			回収2設置2			○	○				○	○	
13	2024.4.12.13	FG	○	○						○	○	○	○		○	○	
14	2024.4.26	FG								○							
15	2024.4.28	FG	○	○	○					○					○	○	
16	2024.5.3	FG	○	○	○					○							
17	2024.5.20	FG	○(※9%)														
18	2024.5.24	FG								○							
19	2024.5.25	FG								○							
20	2024.5.26	FG	○	○	○					○							
21	2024.6.1	FG	○	○	○				○	○	○				○	○	
22	2024.6.7	FG	○							○							
23	2024.6.21	FG	○							○							
24	2024.7.6	FG	○	○	○				○	○	○	○	○		○	○	
25	2024.7.12	FG								○							
26	2024.7.20	FG	○	○	○			○		○						○	
27	2024.8.3	FG	○	○	○											○	
28	2024.8.17	FG	○	○	○			○		○					○	○	
29	2024.9.6	FG	○							○							
30	2024.9.7	FG	○	○				○							○	○	
31	2024.9.22	FG	○	○	○										○	○	
32	2024.10.13	FG	○	○						○					○	○	
33	2024.10.27	FG	○	○				○							○	○	
34	2024.11.3	FG	○	○				○		○					○	○	
35	2024.11.9	FG	○	○						○					○	○	
36	2024.12.1	FG	○	○				○		○	○				○	○	
37	2024.12.7.8	FG	○	○						○	○				○	○	

<調査者略記> FG: 深川元太郎、小原・小原良典

本施設の調査の結果は、既往知見、未査定種を含め 15 綱 54 目 307 科 1,685 種でした。主な分類群をみると、淡水性貝類が 2 種（全種数の約 0.1%、以下同）、十脚甲殻類（エビ・カニ類）2 種（約 0.1%）、昆虫類が 1,603 種（約 95.1%）、魚類が 2 種（約 0.1%）、両生類が 4 種（約 0.2%）、爬虫類が 5 種（約 0.3%）、鳥類が 26 種（約 1.5%）および哺乳類が 10 種（約 0.6%）となります。大部分を占める昆虫類をみると、トンボ目が 13 種（約 0.8%）、直翅類（ハサミムシ目、ナナフシ目、カマキリ目、ゴキブリ目、シロアリ目、バッタ目）が 72 種（約 4.2%）、カメムシ目が 242 種（約 14.4%）、コウチュウ目が 603 種（約 35.8%）、ハチ目が 61 種（約 3.6%）、ハエ目が 42 種（約 2.5%）、チョウ目が 501 種（約 29.7%）となり、コウチュウ目、チョウ目およびカメムシ目が占める割合が多い状況でした。また環境省、長崎県および長崎市のレッドデータリストに掲載されている種は、20 種が見つかっています。一方でウシガエル、モンクチビルtentウ、ヨコズナサシガメ、クスベニヒラタカスミカメなどの外来種も見つかっている状況です。このほか、好蟻性昆虫のアカアリヅカエンマムシがハヤシクロヤマアリの巣内から確認されたこと、クロスジムクゲtentウダマシが産地「Nagasaki」として新種記載以降 130 年以上ぶりに再発見されたことが特筆されます。

以下に確認した種の一部の画像を掲載します。



ツチイナゴ



オオハナアブ



ヒメツチハンミョウ



クロスジムクゲテントウダマシ シカ



キボシコオニケシキスイ



タカハヤ



マダラゴキブリ (幼虫)



ベニモンマルケシキスイ



オジロサナエ (幼虫)



ヤマトヌマエビ



トビモンオオエダシャク



アカアリヅカエンマムシ



ハネナガモクメキリガ



アラメヒゲブトゴミムシ



カブトムシ(幼虫)



キイロトゲエダシャク



アカクビボソハムシ



ハネナガブドウスズメ



ヒメゲンバイ



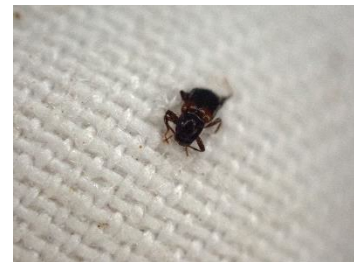
ルリオオキノコ



セスジカクマグソコガネ



アゲハモドキ



アカモンミゾドロムシ



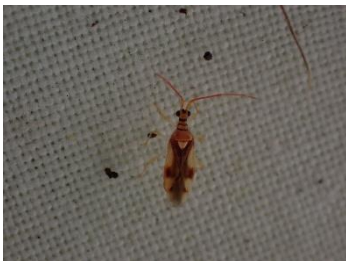
カナブン



オオシロオビゾウムシ



ショウリョウバッタモドキ



クスベニヒラタカスミカメ



コクワガタ



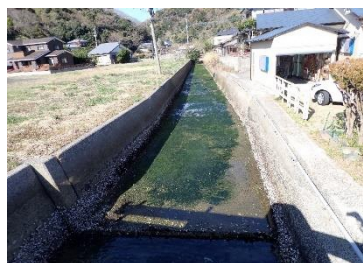
シロモンノメイガ

○市内河川調査

今回の河川調査については、2022 年から実施している調査の一環で、今回で主要河川の全てを巡ったこととなります。とはいえ、調査場所や対象となる生物の一部については調査不足ではあるものの、市内河川に生息する淡水性動物類の概略は把握できたものと思っています。今後もそれらの部分を補いつつ、調査を続けていく予定です。

＜曲川＞ 調査日：2024 年 1 月 8 日 確認種：12 種（令和 5 年度分）

野母港内に流下する小河川で、河口から汽水域は三面コンクリートとなっています。また、水量も少ないため、調査時には表流水がほとんどない状態となっていました。調査は、河口付近の護岸部に付着している生物の把握を目的に実施しています。ケガキ、クログチなど長崎では普通に見られる種類で構成されており、調査範囲も狭かったことから、あまり多くの種を確認できていません。



汽水域



コビトウラウズ



アラレタマキビ

＜源代川＞ 調査日：2024 年 1 月 8 日 確認種：19 種（令和 5 年度分）

脇岬漁港の左側にある小河川で、上流部には現在使用されなくなった浄水施設があります。調査は河口周辺部の砂浜と上流部の浄水施設上流側で実施しました。河口周辺部では打上貝が少ない状態でした。また、多くのヤンバルトサカヤスデと思われる死体が多く確認されました。上流部では、ヤマトヌマエビが多産していましたが、イノシシの活動による痕跡が随所に見られる状況となっています。



上流部



ヤマトヌマエビ



コオニヤンマ（幼虫）

＜浜田川＞ 調査日：2024 年 1 月 8 日 確認種：53 種（令和 5 年度分）

旧野母崎町古里を流下する小河川で、河口から中流部まで遡りながら調査を実施しまし

た。河口部は、海から打上げられた石や砂礫で閉塞している状況となっており、回遊性の種にとって障害となっているようです。確認種の貝類の多くは河口付近に打上げられたものです。下流部～汽水部は、住宅が周囲にあることや、海から打ち上げられるゴミ類が多く、水生生物にとって良好な環境とは言い難い状況でした。



下流部



フネアマガイ



シジミの一種

＜戸石川＞ 調査日：2024年2月12日 確認種：4種（令和5年度分）

シロウオ遡上確認のための調査を実施しました。遡上初期の為か、やや下流側の汽水域で確認できました。本種に絞った調査のため、確認種数が限定的となっています。



汽水域上限付近



シロウオ

＜三重川＞ 調査日：2024年2月24日 確認種：7種（令和5年度分）

シロウオ遡上確認調査を行いました但確認できませんでした。これまでは少数の個体の遡上を確認されていたことから考えると、今回の結果から遡上しなくなっている厳しい状況となっている可能性があります。

＜小江川＞ 調査日：2024年2月24日 確認種：105種（令和5年度分）

シロウオ遡上確認調査を実施しました。近年の調査では遡上を確認されていない状況が続いています。以前は多くの遡上を確認されていましたが、本河川も厳しい状況と考えられます。この他、河口部の砂礫浜で打上貝の調査を実施し、イセシラガイ、タケノコカワニナなどのRDL掲載種を確認できています。種がはっきりしませんが、ウミガメ科の一種と考えられる死骸（白骨化した一部）も確認しています。



汽水域



トミガイ



ウミガメの一種

＜多良川＞ 調査日：2024年2月24日、確認種：5種（令和5年度分）

シロウオ遡上確認調査。1990年代までは遡上が確認されていましたが、それ以降確認されていない状況が続いています。本河川では遡上しなくなったものと考えられます。

＜江川＞ 調査日：2024年3月20日 確認種：3種（令和5年度分）

江川（高浜川）源流部にある溜池の周辺部の踏査を実施しました。ほとんどの石の下に外来種のヤンバルトサカヤスデが確認され、多産している状況でした。長崎半島では蔓延しつつある状況で、生態系への影響が懸念されます。その他、倒木の下からマダラゴキブリの幼虫を確認しています。



上流部



ヤンバルトサカヤスデ

＜池田川＞ 調査日：2024年3月20日 確認種：5種（令和5年度分）

長崎市環境政策課よりオオウナギ情報を頂き、現地確認を実施しました。大池流入付近において多数のフナ類（ヘラブナ）の中に混ざって大型のオオウナギ1尾を確認しました。その他、コイ、アカミミガメなどを確認しています。



オオウナギ



フナ類(ヘラブナ)



アカミミガメ

＜藤田尾川＞ 調査日：2024年3月20日、確認種：112種（令和5年度分）

河口部に広がる砂礫質海岸では打上貝を中心とした調査を、河口部から上流部まではタモ網による調査を実施しました。海岸では、ニシキウズガイ科やサザエ科の貝を中心とした岩礁性の種を確認しています。ミスガイは市内ではあまり多く確認されていない種です。海浜部の陸側では、ハマベオオヒメサビキコリやハマベハサミムシ、ハマダンゴムシが多く確認されています。河口から上流部の調査では、上流部まで表流水がほとんどなく、表流水がある上流部でヤマトヌマエビを少数確認できた程度でした。



河口付近



ミスガイ



キンシバイ

＜蚊焼大川＞ 調査日：2024年4月24日、確認種：75種

干潮時に蚊焼港内に広がる干潟および河口から汽水部で調査を実施しました。干潟では、シオヤガイやユキガイなどの死殻のほか、ウミニナを多数確認できています。汽水域では南方系のゴマフエダイの幼魚のほか、小規模ではあるもののハクセンシオマネキの生息地を確認することができています。



河口付近



ユキガイ



ハクセンシオマネキ

＜岳路川＞ 調査日：2024年4月24日 確認種：116種

岳路海水浴場左岸側を流下する小河川にてタモ網を用いた調査に加え、海岸に打上げられている貝類を中心とした種の把握を実施しました。河川では、この場所で初めてとなるカワアナゴのほか、ニホンウナギなどが確認できています。打上貝では、シボリザクラなどの貝類を確認しています。



河口付近



カワアナゴ



ニホンウナギ

＜大籠町の小河川①＞ 調査日：2024年4月24日 確認種：129種

河口周辺の打上貝を中心とした調査を実施しました。河口周辺の海岸は岩礁とその間に砂地がある地形であり、確認種もこれらの地形で見られるものがほとんどでした。長崎市内では、特に多くの貝類の打上が確認される場所となっています。



河口付近



ワシノハ



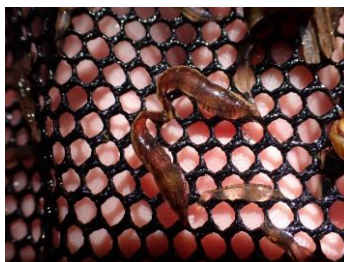
トウガタカニモリ

＜大籠町の小河川②＞ 調査日：2024年4月24日 確認種：106種

河口周辺の打上貝と小河川の汽水部の調査を実施しました。打上貝は、大籠町①と比較するとやや貧弱ではありますが、地形や勾配などの打上げられる環境によって変化すると考えられますので、一概にはいえませんが、概ね類似した種構成であると考えられます。汽水部では、ヌマエビ類やテナガエビ類を中心に確認しています。



河口付近



ヒメヌマエビ



ヒラテテナガエビ

＜飯香浦川＞ 調査日：2024年4月27日、確認種：56種

汽水域および河口周辺の海岸にてタモ網を用いた調査に加え、海岸に打上げられている貝類を中心とした種の把握を実施しました。今回、過去に記録されている種がほとんどでしたが、ウノアシ、ヒメコザラ、ハツユキダカラ、コシロガイ、フジナミ、エビジャコ科の一種といった種を本地点で新たに確認できています。



周辺海岸



コメツキガニ



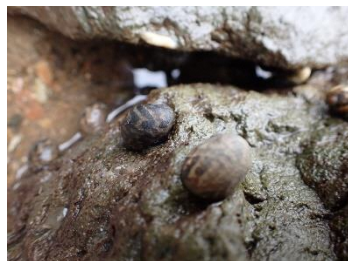
ドロメ

＜琴海尾戸町浦底の小河川＞ 調査日：2024年5月5日、確認種：21種

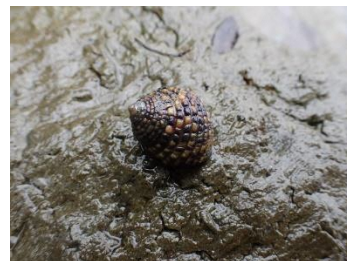
河口は道路の下を通過するため土管状となっており、河口周囲が漁港となっていることもあり、干出部が少ない状況となっています。今回、狭い砂地の干出部でコメツキガニの巣孔を2つ確認しています。



河口周辺



アマガイ



イシダタミ

＜琴海尾戸町古泊の小河川＞ 調査日：2024年5月5日、確認種：31種

河口周辺の打上貝を中心に調査を実施しました。河口左岸部の敷地で工事を行っており、あまり潮が引いていないこともあって、十分に調査ができない状況でした。本地点でクジメとサツキハゼを新たに確認できています。



河口周辺



アオスジアゲハ



ケガキ

＜琴海尾戸町又兵衛の小河川＞ 調査日：2024年5月5日、確認種：62種

形上半島の東岸に位置する本海岸で打上貝を中心とした調査を実施しました。これまで同様、内湾性の種を中心に把握できています。本地点でウラウズガイ、アマオブネ、シドロ、ミミズガイ、クジャクガイ、セミアサリ、エマイボタン、アシガイ、トゲウネガイ、ガンギハマグリなどの打上貝を新たに確認できています。



周辺海岸



シドロ



コベルトカニモリ

＜大村湾に注ぐ河川＞ 調査日：2024年5月5日、確認種：31種

河口周辺に広がるヨシが生育する砂泥干潟と、小河川の中流部にある放棄水田で調査を実施しています。放棄水田では、ニホンアカガエルの幼生や上陸したての小型個体を多数確認。また干潟では、本地点ではフトヘナタリなど干潟上でよく見かける巻貝を確認できています。



周辺海岸



フトヘナタリ



オキヒラシイノミ

＜宮摺川＞ 調査日：2024年5月7日、確認種：68種

宮摺川は、河口閉塞気味となっており、河口部には河川水が滞留し、水深もあるため滞留場所の上流側から下流部で調査を実施しました。また、河口部に広がる宮摺海水浴場で打上貝の確認も実施しています。下流部では、ミナミテナガエビやミゾレヌマエビなどの甲殻類を多く確認しました。カワムツなど純淡水魚は、過去にはギンブナとタカハヤの記録があるものの、今回確認できていません。ギンブナは人為的な放流による一時的な生息、タカハヤは、誤認の可能性もあります。



下流部



スミウキゴリ



ヒラテテナガエビ

＜手熊川＞ 調査日：2024年5月7日、確認種：68種

河口部から汽水域にかけてタモ網を用いて調査を実施しました。河口部は両岸が護岸されており、そこに付着するオオヘビガイ、クログチ、ケガキなどを確認しました。河口部付近ではオオヘビガイの死殻を棲息場所としていたクモギンポ(潮溜まり等で見かける魚)が確認できています。また、死殻ではあるがタケノコカワニナを汽水域で確認できています。



河口付近



コビトウラウズ



カノコガイ

＜大崎川＞ 調査日：2024年5月7日、確認種：66種

潮位の関係で大崎川河口部に到達できなかったため、河口部の右岸側に広がる転石を中心とした海岸で打上貝を中心に調査を実施しました。岩や岩礁、その間隙の砂礫底に生息する種が多くを占めています。また、確認種の多くは、外海に面した海岸でよく確認される種となっていますが、やや内湾の砂泥底でよく確認されるエマイボタンを、小型個体ではありますが確認できたのは意外でした。



周辺海岸



ウノアシ



ナミマガシワ

＜若菜川＞ 調査日：2024年5月7日、確認種：63種

調査日：2024年5月25日、確認種：75種（小原良典氏と共同で実施）

これまで、駐車スペースの問題で調査を行うことができていなかった汽水域に広がる砂泥～砂礫干潟の調査を実施しました。そのため、本河川では記録されていなかった多くの種を今回確認できています。希少種として、ツボミ、ハクセンシオマネキ、ヘナタリ、フトヘナタリ、イボウミニナ、カワアイ、ハザクラなどを確認しました。市内では隣接する北浦海岸と共に貴重な干潟生物の生息場所の一つであると考えられます。また、住宅地が広がっていること、底引き網漁が行われてる茂木漁港が河口部に位置していることから、底引き網での漁獲物と考えられる、テングニシやウラシマガイといった、やや水深がある場所に生息す

る死殻が食後遺棄されているものが散見される状況でした。



干潟



ニホンウナギ



イボウミニナ

＜戸根原川＞ 調査日：2024年7月20日、確認種：26種

汽水域上限付近を中心に調査を実施しました。梅雨の影響が残っており、やや増水している状況でした。今回新たにベニトンボ、ツバサコハクカノコおよびカノコガイなどを本河川で確認しています。ベニトンボは、近年南方から北上し、分布を広げている種です。コハクカノコガイ科は、本類の研究者へ標本を送り、形態的および遺伝的な確認をして頂いています。



汽水上限付近



ヌマチチブ



ツバサコハクカノコ

＜以下宿川＞ 調査日：2024年7月22日、確認種：57種

河口から汽水域上限付近までタモ網を用いて調査を実施しました。極端ではないものの、以前に比べ、生息環境が少し悪化している印象を受けいます。50 cm大のニホンウナギが多く確認され、本種の捕獲圧が少ないようです。



汽水域



ニホンウナギ



タイワンヒライソモドキ

＜黒浜川＞ 調査日：2024年7月22日、確認種：103種(汽水)、14種(上流)

上流では黒浜ダム堰堤からダム湖内の目視確認および堰堤の下流部でタモ網を用いた調査を実施しました。ダムではブルーギルおよびオオクチバスを目視でき、依然として生息していることが明らかとなっています。ダムの下流部では、トゲナシヌマエビを中心に回遊性のエビ類が多産している状況でした。このほか、チョウトンボを7～8個体確認しています。

汽水域や河口周辺では打上貝の把握や、タモ網を用いた調査を実施しました。本河川は大部分がコンクリート三面張りであるため、水生動物が生息しにくい環境となっています。ミナミテナガエビやミゾレヌマエビなどに加え、ニホンウナギも確認しています。打上貝では、環境省等のレッドデータリストに掲載されているコベルトカニモリ、カニモリガイ、ムシロガイ、シチクガイなどを確認することができています。



上流部



トゲナシヌマエビほか



ヒラテテナガエビ

＜松尾川＞ 調査日：2024年8月3日、確認種：82種

河口付近とその周辺海岸を中心に調査を実施しました。確認種数の多くは打上貝の把握によるもので、河川では回遊種のヒラテテナガエビやトゲナシヌマエビが多産している状況でした。そのほか、海岸には未使用の中国製と思われるタバコが漂着しており、何十カートンも確認できました。鹿児島県でも大量の漂着が確認されているようで、本市においても各所に漂着しているものと思われます。



河口周辺



ヒラテテナガエビ



打上げられたタバコ

＜岩原川＞ 調査日：2024年9月1日、確認種：14種

長崎市中心部を流下する小河川であり、河床がコンクリート、両岸が石積護岸と単調な環境となっているため、生息する種数も多くないようです。確認種は石積み護岸の間隙や基質に生息する種や、満潮時に侵入してくる海水魚が中心で、以前の調査で確認していなかった

アカミミガメが今回2個体確認されています。



汽水域



アカミミガメ

＜水辺の森公園＞ 調査日：2024年9月1日、確認種：31種

公園内の水路で調査を実施しました。以前、噴水から水路に流入する排水口付近でハクセンシオマネキを確認していましたが、今回この場所が立入禁止となっており、調査を行っていません。確認種の多くは海産種でしたが、アベハゼやサツキハゼなど、一部汽水性の種も確認できています。



水路



ゴマフニナ

＜中島川＞ 調査日：2024年9月1日、確認種：42種

眼鏡橋付近からスタートし、伊良林小学校横付近まで遡上しながらタモ網の使用や目視調査を実施しました。汽水域ではコゲツノブエ(死殻)やウミニナといった環境省レッドデータリスト掲載種を確認できた反面、コイ、ブルーギル、アカミミガメといった外来種も随所で確認されており、生態系の攪乱が続いている状況と考えられます。コゲツノブエは、調査場所より下流側の水深がある水域に生息している可能性があります。



汽水域



コゲツノブエ(死殻)



ヒナハゼ

＜鹿尾川＞ 調査日：2024年9月14日、確認種：31種

長崎県生物学会会員の蓑田清隆氏よりコフキヒメイトトンボ生息の情報があり、その確認のため調査を行いました。鹿尾ダム流入付近から遡上し、萩ノ尾橋付近まで実施しましたが、その全域で本種を確認し、個体数も少なくない状況でした。市内での新たな生息場所であると共に最大の生息地となっている可能性があります。そのほかドジョウを再確認でき、ミナミメダカも多くの個体を確認したが、ミナミメダカは以前の調査では確認できておらず、人為的な放流である可能性があります。また、アメリカザリガニ、ブルーギル、ウシガエルなどの外来種も確認しています。回遊種であるミナミテナガエビを1個体確認でき、僅かですが鹿尾ダムを遡上してきたものがあることが確認できました。



中流部



コフキヒメイトトンボ



ドジョウ



アメリカザリガニ



ベニトンボ



ブルーギル

＜日見川＞ 調査日：2024年9月16日、確認種：61種

タモ網を用いて遡上しながら調査を実施しました。汽水域では、本河川では初確認であるカワスナガニやクロコハゼなどを採集しています。またゴマハゼは群れを複数確認でき、個体数も少なくない状況でした。下流部は、一部石を堆積させて流れを押さえる工法となっており、水生動物の良好な隠れ場所となっている反面、調査による把握が困難な状況となっています。下流部では本河川初記録のボウズハゼを3個体目撃しています。



汽水域



クロコハゼ



カワスナガニ

＜大浦川＞ 調査日：2024年9月29日、確認種：90種

河口付近からスタートし、遡上しながらタモ網の使用や目視調査を実施しました。河口部に打上げられた貝類のほか、干潮時に形成される泥～砂礫干潟上に生息する種が主な確認種となります。コゲツノブエ、フトヘナタリ、イオウハマグリ(死殻)、ハクセンシオマネキなどの生息を確認できています。



汽水域



ハクセンシオマネキ



タケノコカワニナ

＜戸根川＞ 調査日：2024年10月26日 確認種：41種

汽水域上限付近からスタートし、遡上しながらタモ網の使用や目視調査を下流部まで実施しました。落ちアユの季節の為か、下流部には多数のアユが確認され、汽水域上限付近の瀬ではツバサコハクカノコも確認できています。また、水生昆虫類のミズカマキリやコガタノゲンゴロウといった大型の種も今回確認でき、特に後者については個体数も少ない状況でした。



汽水域上限付近



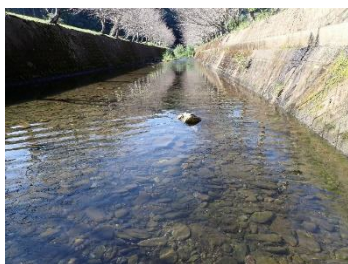
マハゼ



クビキリギス

＜手崎川＞ 調査日：2024年11月3日 確認種：44種

汽水域上限付近からスタートし、遡上しながらタモ網の使用や目視調査を下流部まで実施しました。本河川でも、ツバサコカクカノコが確認され、県内では戸根原川、戸根川に続き3カ所目になります。今後も大村湾流入河川を中心にコハクカノコガイ科の生息状況を把握する予定ですが、調査を行った3河川全てで確認できていることから、大村湾流入河川に広い範囲で生息している可能性があります。このほか、落ちアユが多数確認できたこと、小規模なワンドでドジョウを確認できたことが特筆されます。



下流部



ミナミメダカ



ドジョウ

＜四戸ノ川＞ 調査日：2024年11月17日 確認種：57種

汽水域上限付近に生息するコハクカノコ科を確認調査後、下流域でタモ網を用いて調査を実施しました。本河川においてもツバサコハクカノコを確認できています。下流部では、ヒラマキガイモドキやクルマヒラマキガイなどのヒラマキガイ科の貝、モンキマメゲンゴロウやキボシケシゲンゴロウといったゲンゴロウ科の昆虫類、ドンコやウキゴリといった魚類を確認することができました。キボシケシゲンゴロウは、主に河川上流部の川岸の礫などで見つかりますが、下流部の抽水植物が生育する環境で見つかったのは意外でした。本種は市内では、新産地の本河川を含め複数河川で見つかっています。その他、本河川の近くにある水田の集水桝でドジョウとカダヤシを確認しました。本場所ではこれまでミナミメダカがよく確認されていましたが、今回確認されず、カダヤシに変わっている状況でした。今後、本地域にカダヤシが広がるのではないかと懸念しています。



下流部



コガタノゲンゴロウ



キボシケシゲンゴロウ

＜大子川＞ 調査日：2024年11月24日 確認種：40種

汽水域上限付近でタモ網や目視調査を実施した。魚類ではスミウキゴリ、ミナミメダカ、

ヒナハゼ、アシシロハゼなどを確認しました。貝類では、ユウシオガイ、ヒロクチカノコもしくはその近似種、ツバサコハクカノコ、ウミニナなどを確認しています。甲殻類ではユビナガホンヤドカリやユビナガスジエビのほかマメコブシガニなども確認できています。小河川ながらも良好な状態が維持されているようです。スミウキゴリはメスの腹部が膨らんでおり、産卵期近くになっているようでした。



汽水域



ヒロクチカノコ(近似種)



ウミニナ

<宮崎川> 調査日：2024年12月21日 確認種：68種

河口部の玉石海岸に打上げられている貝類を中心とした水生動物類の調査を実施しました。宮崎川の汽水域などに生息するカノコガイ、イシマキガイ、モクズガニ(死体)などが打上げられているほか、河口周辺海域に生息する種類が確認されています。



河口部



ウラウズガイ



カコボラ

<雪浦川水系藤原川> 調査日：2024年12月22日 確認種：15種

形上(楠原)どぶ池の下流側にあたる藤原川上流部でタモ網を用いた調査を実施しました。魚類ではドンコやタカハヤが確認されたものの、あまり多くなく、水生昆虫類も少ない状況でした。



上流部



ドンコ



タカハヤ

○その他の調査

＜出津海岸＞ 調査日：2024 年 1 月 14 日（令和 5 年度分）

海岸部で打上貝と海浜性昆虫類の調査を実施しました。今回新たに 40 種追加し、本海岸では計 280 種の生息が確認されたことになります。ハマベオオヒメサビキコリは、ハマゴウ群落内にある石の下で多数の個体を再確認することができています。これらは越冬中の状態と考えられ、石の下などでまとまって見つかることが多い状況でした。



出津海岸



マルスダレガイ（死殻）

＜川原海岸＞ 調査日：2024 年 12 月 21 日 確認種：182 種

海水浴場に打上げられた貝類や砂浜一帯の昆虫類を中心に調査を実施しました。沖合に消波ブロックがあり穏やかな海浜部となっていますが、やや外海に面し、周囲が岩礁や転石帯となっているため、砂～礫浜であるにも関わらず、岩礁等に生息する種が多く打ち上げられています。昆虫類では、海浜性のケシツブスナサビキコリが砂上にあった石の下から見つかっています。本種は、江戸末期から明治にかけて来日した G. ルイス氏が Nagasaki で 1894 年に採集した記録がありますが、この Nagasaki が現長崎市内であった場合、それに次ぐ 130 年ぶりの記録となります。なお、近隣では雲仙市愛野町で 2014 年に採集されているようです。



砂浜海岸



カニモリガイ



ケシツブスナサビキコリ

＜網場金比羅岳＞

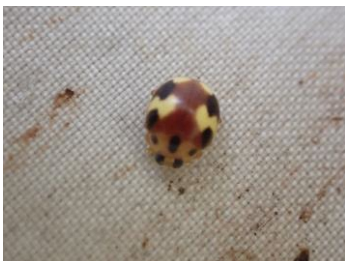
○調査日：2024 年 3 月 30 日 確認種：109 種、4 月 13 日 確認種：90 種

東長崎の潮見町にある本場所で調査を実施しました。3 月 30 日昼にビーティング等を、4 月 13 日夜に灯火採集を行っています。東屋がある広場にはヒメツチハンミョウが発生しており、路上脇の地面に産卵を行っている個体も確認されています。また、林道脇の水溜ま

りではニホンヒキガエルの卵塊やシュレーゲルアオガエル、マルタンヤンマのヤゴなどを確認できました。灯火採集では、市民の森のようにシカの食害が少ないためか、植物の種数が多く、昆虫類の飛来数も多い状況でした。



網場金比羅岳



アミダ TENTOU



シュレーゲルアオガエル

○調査日：2024 年 4 月 27 日 確認種：155 種、4 月 28 日 確認種：63 種、5 月 4 日 確認種：250 種

4 月 27 日昼にビーティング等を、4 月 28 日夜に灯火採集を、5 月 4 日昼にビーティング等を、夜に灯火採集を行っています。市民の森同様、今回多くの昆虫類が確認されています。例年 6 月初旬頃に発生するオオヒョウタンキマワリがすでに発生していたり、林床のベニシダには県内でもあまり記録が多くないキンイロエグリタマムシが多数確認されるなど、低山の多様な生態系が維持されているようです。



網場金比羅岳



ナガサキクビナガゴミムシ



ナカアカクルマメイガ



クチナガゲンバイ



オオヒョウタンキマワリ



ジュウシチホシハナムグリ

＜池島(離島調査)＞

今年度は、無人島調査ではなく、池島を年 4 回調査する計画で行いました。第 2 回の調査は、荒天のため中止となっています。全調査の結果、種類まで名前が分からなかったものも含め 275 種が確認できています。

○第1回 調査日：2024年5月18日、確認種：127種

自然海岸を中心に打上貝や付着生物の調査を実施しました。また、見かけた海浜性昆虫類の調査も実施しています。北西部海岸、東部共に打上げられている貝類が本土周辺部の海岸に比べ非常に少ない状況でした。また、ネコの糞が多く、一部では臭いも漂っています。北側海岸では、未成体のアカウミガメの死体が打ちあがっており、腐臭に集まってきたハマベエンマムシを確認できています。このほか県内2例目のウミミズギワゴミムシを1個体確認できています。



北西海岸



カヤノミカニモリ



ウミミズギワゴミムシ

○第3回 調査日：2024年10月5日、確認種：169種

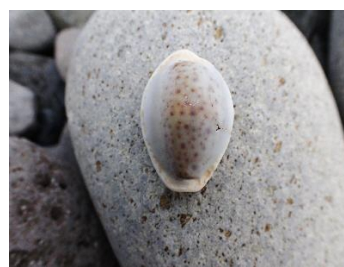
南東部にある砂礫～転石海岸で打上貝を中心とした調査を実施しました。前回実施した北側海岸と比べ、打上げられた種類も多く、池島本来の環境が比較的維持されていると考えられました。また、サンゴなどに付くアッキガイ科の種類が確認されており、南東側海岸では暖流の影響を強く受けているようです。7月下旬から8月上旬頃から確認されている中国産タバコが、本海岸にも大量に打ち上げられており、海岸動物を含めた環境への影響が懸念されます。



南東海岸



アカイソガニ



オミナエシダカラ(死殻)

○第4回 調査日：2025年1月18日、確認種：北西海岸50種、東海岸：98種

北西部及び東部海岸を中心に調査を実施しました。海岸に打上げられている貝類等の調査と海浜性昆虫類の調査を中心に実施しています。北西部の海岸は、第1回調査と同様に打上げられている種類・個体数共に少なく、確認種の多くが漂着物に付着した種類でした。この一帯は潮下帯で貝類等が生息しづらい環境となっているものと思われます。また、東海岸へ向かうに従い、打上貝類の種類が増加している状況でした。海浜性昆虫では石の下などにハマベオオヒメサビキコリやハマベキクイゾウムシなどを確認することができました。また、アリジゴク型のツノトンボの幼虫も見つかっています。



北西部海岸



ツノトンボ幼虫



ヨフバイ(死殻)

○さいごに

本調査にあたり、コハクカノコ科を同定頂いた狩野泰則氏（東京大学大気海洋研究所）、調査にご協力いただいた小原良典氏（長崎県小学校教諭）、貴重な情報を頂いた蓑田清隆氏（長崎県自然環境監視員）に厚く御礼申し上げます。